

2015年
入試用

学校説明会レポート



市進

明治大学付属明治高等学校・中学校

- 日時** 2014年7月1日(火) 10時40分～11時50分
- 所在地** 調布市
- 会場** 多目的教室
- 対象** 塾
- 出席者数** 約70名
- 配付資料** 学校案内、学校説明会資料、パワーポイント資料、2014年度中学、高校入学試験結果分析各1部、Meiji Deta Box 2014、TOEIC平均点推移(2009～)、2014施設案内図など

説明会の概要

あいさつ

学校長 安藏伸治先生 10:40～11:05

- 本校は1912年に旧制明治中学校として創立しました。2008年に神田猿樂町から現在の調布の地へ移転すると、同時に共学化され、2012年に創立100周年を迎えました。建学の精神は「質実剛健」・「独立自治」です。
- 明治大学の唯一の直属校である本校は大学の中心となる優秀な人材を送り出すことを目的としています。
- 明治大学からは「問題解決能力」を持った学生が求められています。大学に入ってから学びにおいては高等教育までの基礎学力が必須です。大学受験の際、必要な学力には部分的な知識の欠損があります。しかし、明治大学直系付属校である本校においては受験勉強にとらわれずに偏りのない確かな学力を身につけることができます。
- 文部科学省は13の指定大学を拠点として急速にグローバル化を進めようとしています。明治大学においても留学生受け入れ枠の拡大、留学補助金制度の拡充、さらに英語による授業の構築等に取り組んでいます。
- 高校卒業までにTOEIC、TOEFLなどで高得点を獲得すれば明治大学進学後の海外留学チャンスが広がります。本校生徒にはTOEICで700点以上を獲得してもらいたいと思います。

英語教育・進路

中学教頭 横山先生 11:05~11:20

本校独自の英語教育、国際教育について

- 中学では英語の授業が週 7 時間あります。週 2 時間の英文法、週 1 時間のネイティブ教員による英会話、週 4 時間の総合英語という構成です。中 1 から 23 名程度の少人数制授業を行い、中 2・中 3 では習熟度別授業を実施しています。習熟度別クラス編成は定期考査の度に入れ替えます。2 クラスを英語教員 3 名で教える体制です。
- 高等学校への内部進学基準として英検準 2 級の第 1 次試験に合格することが必須です。2013 年度は英検準 2 級第 2 次合格者 95%、第 1 次までの合格者 99%という結果でした。
- 本校独自の海外研修制度として、中学校同士で現在友好交流協定を結んでいる上海の建平中学との国際交流があり、高校では 1 年間にわたる長期海外留学生に対する単位の一括認定制度があります。高 1 の 2 学期から高 2 の 9 月まで留学する生徒に対しては留年することなく進級する権利が与えられます。昨年度は 1 名がドイツに留学しました。

進路について

- 明治大学へは毎年 90%以上が内部進学します。明治大学への進学希望者に対しては高大連携のさまざまなプログラムが用意され、大学の教員や卒業生の協力を得ながら独自のキャリア教育がなされています。さらに毎年、国公立大などの他大学進学を目指す生徒がいます。他大学を受験する生徒に対しては明治大学の内部推薦権を保持したうえでの併願受験が認められます。2014 年に他大学へ進学した者は 22 名で、そのうち国公立大学進学者は 15 名でした。進学先は一橋大・東工大・北大・筑波大・お茶の水女子大・東京外語大などです。

入試

広報主任 斎藤先生 11:20 ~11:50

- 【変更点】 中学入試→(なし) 高校入試→(なし)

2014 年中学入試をふりかえって

- 中学入試志願者数：前年比で第 1 回が 6.9%減、第 2 回が 13.0%減で、特に男子の減少が 15.1%と顕著でした。第 1 回男子の減少では都心の男子進学校の本郷などのほか、学習院などの大学付属男子校の影響が考えられます。女子の減少は全体で 3.2%でした。第 2 回の減少では入試日を移動した青学や立教池袋などの共学付属校との競合や都立中高一貫校が影響していると考えられます。実質倍率：第 1 回男子 2.8 倍→2.9 倍、女子は 5.1 倍と変わらず、第 2 回男子は 6.5 倍→4.4 倍と低下しています。女子は前年並みの 5.2 倍となりました。倍率に関しては少しずつ落ち着き、入試が緩和していくかと思われます。しかし、合格最低点の推移を見ると、第 1 回男子は 203 点→211 点、女子は 208 点→225 点、第 2 回男子は 201 点→119 点、女子は 204 点→211 点と全体的に上

昇傾向で、入試の難易度を意図的に変えることはしていないので、入試が緩和したと一概に言い切ることはできません。

- （合格者平均）－（受験者平均）の変化：第1回4科平均44.23点→43.51点、第2回42.93点→38.39点で受験生レベルは全体的に近接していることがわかります。もっとも差がついたのは算数でした。
- 第1回、2回ともに併願者の手続き率は高く、特に第2回併願者では男女ともに9割を超えています。第1志望受験生の入学者数も上昇しています。合格の目安は6～7割です。
- 中学入試優遇措置：2回同時受験者を対象に第2回入試ボーダーラインで3点を加えます。2014年度の対象者は男子3名、女子8名の計11名でした。追加合格者：第1回男子6名、第2回男子11名で、あわせて17名でした。
- 帰国生優遇制度：2年以上継続して海外に在住し、入学2年前に帰国した者には5点を加え、5年以上継続して海外に在住し、入学1年前に帰国した者には10点を加えます。

2014年高校入試をふりかえって

- おもな私立校との併願者（前年比）：早稲田高等学院3.5%減、早稲田実業3.9%増、中大附属14.0%減、法政大15.9%減、明大中野八王子16.3%増、中央大学横浜224.8%増、慶應義塾3.9%減などとなっています。一般入試における上位受験生は強い公立志向をもっています。
- 本校入試志願者数：一般入試（19.7%減）、推薦入試（37.3%減）ともに減少しました。推薦入試で高倍率が数年間続いてきたことに対する敬遠、さらに2013年入試で推薦志願者が大幅に増えたところからの揺り戻しで大きく数字が動きました。
- 実質倍率：2012年より推薦男子4.2倍→3.7倍→2.1倍、女子2.6倍→3.3倍→2.2倍、一般男子2.6倍→2.5倍→2.2倍、女子4.2倍→3.6倍→3.1倍です。一般の倍率が落ち着き、受験生の皆さんにとっては、より一層本校を受験しやすくなったのではないのでしょうか。
- 高校入試優遇措置：推薦・一般両受験者を対象とし、一般入試のボーダーラインで5点を加えます。
- 特待合格：一般入試の上位合格50名に対し、入学金相当額を給付します。

説明会の雰囲気・印象

- 国のグローバル化に沿ったところの英語教育の内容や、2014年入試をふりかえって、丁寧にお話しくださいました。配布資料も充実していました。

学校周辺の環境

（※学校以外で実施の場合は無記入）

- 学園のまわりは閑静な住宅街です。スクールバス以外にも路線バス（京王バス・小田急バス）がJR中央線、京王線、小田急線の4つの駅より出ています。

交通

- JR中央線三鷹駅からスクールバス約 25 分
京王線調布駅・飛田給駅からスクールバス約 15 分
JR南武線矢野口駅からスクールバス約 25 分
西調布駅より徒歩 18 分